

よりよい社会の実現に向けて！

～公平・公正の視点から～

高等学校・2年生

I プログラムについて

- 1 人権教育上のねらい（普遍的な人権課題「公平・公正」）
 =【人権感覚育成のための視点】
 身近にある具体的状況について話し合う活動を通して、一方に偏ることなく、公平・公正な見方や考え方を尊重しようとする。
- 2 関連する教科等について
 ○総合的な学習（探究）の時間
- 3 人権教育上の視点
 - (1) よりよい社会の実現を目指し、公平・公正を尊重しようとする態度を身に付けている。（価値・態度）
 - (2) 公平・公正の観点から、実情を踏まえて多角的に考えることができる。（技能）

II アクティビティーについて

- 1 概要
 - 活動1
ワークシートの資料1について考えたことを、近くの人と意見交換する。
 - 活動2
ワークシートの資料2をもとに、考えたことを発表する。
 - 活動3
ワークシートの資料2の課題の解決方法についてグループで協議し、考えた方法を発表する。また一番公平な解決方法を協議する。
 - 活動4
振り返りを通して、自分の考えを深める。
- 2 準備するもの
 - ワークシート
 - 発表に使う説明シート用の紙、マジック（グループの数）

3 アクティビティの進め方

○活動1 「『公平』とは何か？」

- ① ワークシートの間1として、みんなでお金を出して買ったパンについて、じゃんけんで食べる人を決める方法は「公平」であるかどうかを考える。
- ② 考えたことについて、周囲の人と意見交換をする。

○活動2 「課題は解決されたか」

- ① ワークシートの資料2にある図①～③とその解説を読み、図の表している内容を理解する。
- ② ワークシートの間2について、3個の箱を平等に1個ずつ分け合うという方法で、課題は解決したかどうかを考え、発表する。
- ③ 全体での発表を通して、単純に均等に分けることでは課題は解決していないことを理解する。

○活動3 「どうすれば課題は解決できるか」

- ① ワークシートの間3について、グループで課題を解決するための方法を話し合う。
- ② 各グループで考えた解決方法を全体で発表し合い、全体で意見を共有する。
- ③ ワークシートの間4として、各グループの発表した方法から一番公平な解決方法を考えることを通して、公平な見方や考え方を深める。

○活動4 「振り返り」

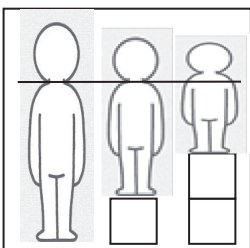
- ① 振り返りを通して、本時の学びや気づきを深める。

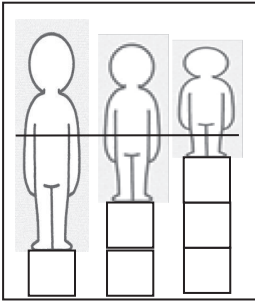
4 アクティビティを指導する際のポイント

- 課題の解決方法を決めることが目的ではなく、公平・公正の視点から人権感覚を育成することを目的としていることから、指導者の考えを押し付けたり、参加者全員の考えが同じになるように誘導したりしないよう留意する。
- 活動中、うまく自分の意見がまとめられない生徒に対しては、途中までどう考えたのかを書いたり、発表したりしてもよいことを伝える。
- 同和問題学習や進路学習において、就職や進学における公正採用・選考をテーマとした授業と関連させることで、公平・公正な社会の実現を自分の問題としてとらえさせることが期待できる。
- 例えば、「公共」（公民科）の授業において「公共的な空間における基本原理」について学ぶ授業と関連させると、効果的である。

Ⅲ 授業の実際

時間	学習活動 発問 (T) 生徒の反応例 (S)	教師の働きかけ (・) 人権教育上の配慮 (◎)
10分	<p>1 課題の把握</p> <p>T 資料1の問1について、自分の意見をまとめ、周囲の人と意見交換をしましょう。</p> <p>S 全員が納得しているのであれば、「公平」だと思う。</p> <p>S お金を出しているのに食べることができない人が出るような方法は、「公平」ではないと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料、ワークシートを配布する。 ・「公平」であるかどうかだけでなく、そう考える理由も説明させ、人によって様々な考えがあることを実感できるようにする。
35分	<p>2 課題解決の見通し</p> <p>T 資料2の図①②③とその解説を読んで、問2について自分の意見をまとめ、発表しましょう。</p> <p>S 箱は「平等」に分配しているが、このままだと右端の人は観戦できないので課題は解決していない。</p> <p>S もともと左端の人は観戦できていたのだから、箱は必要ないのではないか。</p> <p>S 左端の人も箱があった方が観戦しやすくなるので、箱は必要だ。</p> <p>3 課題解決の協議</p> <p>T 問3として課題を解決するための方法を二つ以上考え、発表用の説明シートにまとめてみましょう。</p> <p>T グループで考えた方法を、それぞれ発表しましょう。</p> <p>S 3人が平等に観戦できるようにするために、図のような分配方法を考えた。 (Aグループ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「図の中の3人それぞれの立場から考えてみよう」といった声掛けをすることで、公平・公正を考える際には、一見すると平等な方法に見えても、一人一人の立場の違いによって受け止め方が異なることを理解させる。 ・箱一つずつに乗っただけでは、全員が観戦して満足するには至っていないことを確認する。 ・3～4人のグループをつくらせる。 ・発表用の紙、マジックを配布する。 ◎公平・公正の観点から、多角的に考えることができるように、方法は一つとは限らないことと、解決方法を文章や絵で自由に表現するように伝える。(技能) ・一つ方法を考えたグループには、さらに別の方法を考えるように促す。



	<p>S 真ん中の人2人、左端の人が1人、右端の人が2人の肩の上に乗れば、全員が観戦できる。</p> <p>S 図のように、箱の数を増やせば、右端の人が観戦できるようになるだけでなく、全員がさらに観戦しやすくなる。</p>  <p>(Bグループ)</p> <p>S 例えば塀を金網に変えてしまえば、何時でも誰でも自由に観戦することができる。しかし、実現するには、3人だけの力では不可能だ。</p> <p>(Cグループ)</p> <p>T 問4として各グループの発表の中で、どれが一番、公平な解決方法だと思いますか。</p> <p>S Aグループの方法が最も現実的だと思うが、みんなで協力して箱を集めることができればBグループの方法も実現できそうだ。</p> <p>S 目の前の問題解決ではなく、未来のことを考えるとCグループの方法が一番良いと思う。</p> <p>S もっと多くの人を集めて施設を管理する市に改修を頼めば、Cグループの方法も実現できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現実的にできるかできないかにかかわらず、大胆な発想で解決方法を考えるように伝えることで、様々な考えが出るようにする。 <p>◎公平とは何かという見方や考え方を深めるために、発表された方法の比較を促し、公平の観点に沿った意見等を取り上げて称賛する。</p> <p>(価値・態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どれが一番の方法かを定めることが目的ではなく、解決方法の比較を通して公平な見方や考え方を深めることが目的であることに留意する。
<p>5分</p>	<p>4 振り返り</p> <p>T 今日の授業で感じたこと、気付いたこと等をワークシートにまとめてみましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに書いた内容を全体で発表させたり、後日まとめたものを配布したりすることで、個人の学びを全体で共有する。

IV 資料

(1) ワークシート

() 年 () 組 氏名 ()

<資料1>

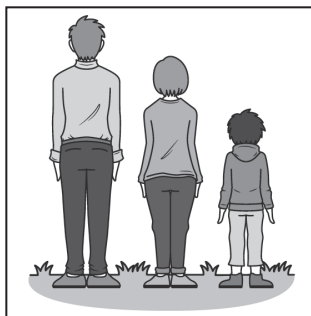
問1 4人でお金を出し合って1個のパンを買いました。このパンを「じゃんけんで勝った1人が食べる」ことにした場合、「公平」だと思いますか。

※ 「公平」: かたよらず、えこひいきのないこと (『広辞苑 第7版』(平成30年1月) 岩波書店)

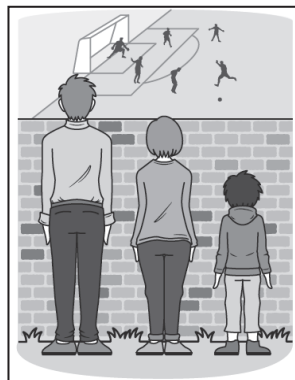
メモ

<資料2>

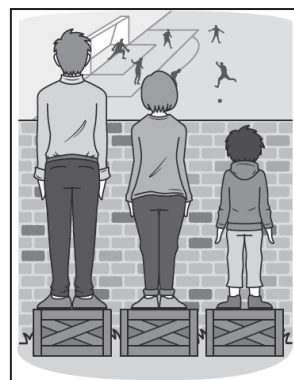
図①



図②



図③



【図①の説明】

- 3人には身長差があります。

【図②の説明】

- 3人でサッカー場に観戦に来ましたが、目の前には塀があり、このままでは左端の1人しか観戦できません。

【図③の説明】

- 近くで観戦していた人から箱を3個もらい、みんなで平等に1個ずつ箱を分けることにしました。

問2 図③の状態になったことで課題は解決したと思いますか。

メモ

問3 課題を解決するための方法を二つ以上考え、発表用の説明シートを作りましょう。

メモ

メモ

問4 発表された解決方法の中で、どの方法が一番良いと思いましたか。

メモ

◇ 今日の授業で感じたこと、気付いたことなどを書きましょう。
